

芦田宿から発信したいこと

佐藤 三恵子（町）

「下にー。下にー。」と和宮姫のお嫁入りの行列が通ったという芦田宿。その日は芦田はもとより、近隣の村人が総出で、和宮姫のおもてなしをしたことでしょう。中山道26番目の宿場「芦田宿」を元気にしようとして「中山道芦田宿づくり協議会」ができたのです。そして3年。5回目の「中山道ウォーキング」が間近に迫ってきました。

笠取峠から松並木、町区メインストリートを通り芦田川まで。*「税」が道路



に突き出た屋根の土屋金丸旅館、脇本陣跡の両山浦家、そして土屋家本陣がありますが、宿場の面影は？周りを見回しても江戸時代の風情は何もありません。それでも毎回中山道を歩こうと、県内外から大勢の皆さんが来てくれます。皆さんに温かいおもてなしをと、当日は「語りべの会」の皆さんが、道中の案内や本陣の説明をします。芦田宿通りでは、古町地区の子供たちによる獅子舞、「きのこ汁」や「甘酒」を振る舞い、おもてなしをします。

街路樹のない芦田通りには、町区の有志の方々に「花の里親」になっていただき、コスモスの種子を蒔き、育て、花の管理栽培をお願いしました。そして当日は、菊作りの方々にも協力をいただき、芦田宿通りにはコスモスが咲き、菊の花も凛と咲き、訪れる人を待っています。また、春には沿道の空き地に捨てられていたゴミの山を片付け、残ってしまったゴミの目隠しに柵を作り、ゴーヤと朝顔の苗を植えました。いま初秋を迎え、ゴーヤが実をつけ朝顔が見事に咲いています。

いい町だから…。人が温かいから…。

と訪れる方々の想いにふれる。そんな「中山道ウォーキング」にしたいと、会員40名の仲間が心待ちにその日を待っています。そしてこのことが、芦田宿や立

ふれあいの中山道と芦田宿

萩原 昌介（町）

中山道は、江戸時代に整備された日本橋を起点とする五街道の一つで、東海道とともに江戸と京を結び、多くの旅人が往来した中山道。

東海道53宿、中山道69宿で東海道は距離が短いですが難所も多い、大井川や天竜川のような大きな川がなく、川止めが少なく時間が読めることなどから、姫街道とも、木曾街道とも呼ばれ、多くの徳川家の夫人などの姫君の行列に使用され、中でも14代将軍家茂に降嫁和宮の行列は有名なお話である。

当芦田宿は、中山道69宿のうちで、江戸日本橋から26番目の宿場であり、信州の宿場は軽井沢から木曾の馬籠（現在は岐阜県中津川市）までの26宿、木曾路とも呼ばれ、信州中山道26宿!!
芦田宿は、江戸幕府の交通施策施行（慶長6年）より4年前で北佐久では一番早くできた宿場でもある。

芦田宿は、芦田氏の浪人岩間忠助と土

科町の活性化の一端を少しでも担うことができればと願っています。

*「税」……「つだつ」とは、建物の両脇の壁を屋根より高く上げた部分のことで、建築的には防火壁と言われている。

屋右京之衛門が神官今井曾五郎とともに、慶長2年（1597年）に開設された、蓼科神社に納めた「芦田宿立駅についての願文」に、「新町相立申田」と残されている。

現在の芦田宿本陣、御殿は寛政12年4月（1800年）に再建され、本年、3年間の復元工事も終えすっかりと創建当時に戻され、昔を偲ばせる。

本陣は、参勤交代の大名、公用旅行者、宮家や公郷などの宿泊設備である為、規模は広大である。芦田宿本陣の建物が残るのは大変珍しく貴重な建物であるため、昭和63年8月18日に県宝に指定されています。

さて、町区、茂田井区、上房部落の皆さんにより、笠取峠山頂から茂田井間の宿までの6キロ、中山道ウォーキングを開催しております。本年は10月21日（日）に第5回を目指して、計画進行中ですので多くの皆様の「ご参加をお待ちしております。」